

令和4年度 第56回 中学生の「税についての作文」

町田税務連絡協議会優秀賞

『消費税について』

町田市立武蔵岡中学校 3学年 森山 有希

私たちの身近にある税として、消費税があります。日本で消費税が導入されてから、徐々にその税率は上がってきています。私たちが払っている消費税はどんな存在なのでしょうか。

消費税は物を買うとき、サービスを利用するときその値段に上乘せられます。日本が消費税の導入を決めたときの税率は三パーセントでした。それが今では十パーセントまで上がっています。なぜ消費税を上げる必要があるのでしょうか。

それは現在日本を取り巻く社会保障の問題が大きく関わっています。税はもちろん消費税だけでなく、住民税や所得税、自動車税など多岐に渡ります。しかし、それらの税は容易に税率を上げることができません。一番上げやすいのが消費税というわけです。その税率の上昇分を社会保障に補填しようという議論が活発に行われてきました。そうなるとう問題になるのがその増額分をあてにした社会保障が中身の薄いものになってしまうことです。待機児童の問題、高齢者が生きやすい社会の実現のためにはこうした税収が必要なのです。

北欧は消費税の占める割合が大きいことで有名です。こうした国では介護サービスが充実しており、安心して老後を送ることができ

ます。今の日本では、財源の確保が難しいため、若者への投資は優先されていて高齢者へのサービスの提供は後回しにされてしまいがちです。しかし、高齢者が生き生きと暮らすことができなければ、その負担は介護という形で若者が背負うこととなります。この問題は切り離して考えずに、包括的に考えるべきだと思います。

軽減税率の導入も始まりました。本来税というものは富裕層に対して多くの税を納めるようにできています。軽減税率はその仕組みの一環です。さらに食料品や日用品の税率を下げればそれだけ生活弱者の助けにもなります。

このように税は社会を形成するために必要な仕組みと理解することができます。消費税を上げるとなると反対される方がいます。しかし、将来の国のあり方を見つめたときにただ物の値段が高くなるから上げない方がいい、むしろ消費税などなくていいと考えるのではなく、次世代を担うもののために今投資が必要なんだという考え方が必要になってくるのではないのでしょうか。

この先、日本の消費税はどこまで上がるかは分かりませんが、税を納めるということは義務でもあり、責務でもあるのできちんと納めていきたいと思えます。